

マルクス・エンゲルス研究者の会
2006年次第22回研究例会の
ご案内

2006年11月20日

各位

皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本会2006年次第22回研究例会は下記の要領で行うこととなりましたので、ご案内致します。会員でない方にも開放しておりますので、師走のご多忙の折と存じますが、ご関心おありのむきは、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますと幸甚です。

前畑憲子会員のご厚意により「立教大学経済学部創立百周年記念事業」に組み込んでいただくことができました。昨年に引き続きシンポジウム形式をとりますことにつきましては、その意義について「東北大学『共産党宣言』研究プロジェクト」代表の大村泉会員の趣意書を添えますのでご覧下さい。

昨年11月21日から24日にかけて「同志社びわこトリートセンター」を会場に行われました新メガ国際コロキウムの第2セッション『『共産党宣言』の影響=普及史』における五つの報告が掲載された会誌『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』第47号は八朔社から11月23日に発行されます。

マルクス・エンゲルス研究者の会世話人

記

○名 称：立教大学経済学部創立百周年記念国際シンポジウム

『『共産党宣言』の普及と影響の歴史』についての国際シンポジウム

——翻訳史から見る文化の受容と変容の研究——

○日 時：2006年12月9日(土曜日)午後1時～5時30分（遅くとも6時には終了）

○会 場：立教大学 12号館(地下1階) 第1・2会議室

（アクセスは、<http://www.rikkyo.ne.jp/grp/kohoka/campusnavi/ikebukuro/index.html>等をご覧下さい）

○報告：（中国からの報告者が事前のお知らせと変わっております。報告タイトルは仮題）

季 正聚（中国・中央編訳局）

「中国における『共産党宣言』の普及と日本語訳との関係」

ロルフ・ヘッカー（ドイツ・ベルリン・ブランデンブルク科学アカデミー）

「統一ドイツの状況と『共産党宣言』」

マルチェッロ・ムスト（イタリア・ナポリ大学研究員）

「イタリアにおける『共産党宣言』の普及と受容」

窪 俊一（東北大学）

「画像で見る『共産党宣言』」

橋本直樹（鹿児島大学）

「日本における『共産党宣言』の翻訳=影響史について」

今井伸英（東京学習会議）

「『共産党宣言』の普及における困難と可能性」

○共催・後援団体：(主催する当会[代表:宮川 彰 首都大学東京教授]の他)

東北大学『共産党宣言』研究プロジェクト（代表：大村泉東北大学教授、国際マルクス/エンゲルス財団編集委員会委員）

立教大学経済学部

国際マルクス/エンゲルス財団（後援）

東京学習会議（後援）

○趣意書：

立教大学経済学部創立百周年記念国際シンポジウム

『共産党宣言』の普及と影響の歴史についての国際シンポジウム

——翻訳史から見る文化の受容と変容の研究——

（趣旨）

マルクス/エンゲルスの『共産党宣言』が刊行されたのは1848年であった。本書に対する関心は、21世紀の今日においてもなお非常に大きいものがあるのだが、2人の著者が生前認定した版本についてはとまかく、20世紀以後、とりわけ1917年のロシア革命以後の、本書の国際的な普及＝影響史に関する研究は、内外共に極めて手薄である。

このような研究史上の欠落を埋めるため、東北大学『共産党宣言』研究プロジェクトは、国際マルクス/エンゲルス財団（本部：アムステルダム社会史国際研究所、事務局：ベルリンブランデンブルク科学アカデミー）やロシア国立社会＝政治史アルヒーフ・モスクワとの緊密な連繋の下に、『共産党宣言』各国語版の調査と関連文書の蒐集整理に努めてきた。その結果、世界の異なる諸国、地域で刊行された、70点を超える異なる『共産党宣言』の版本画像を蒐集することができた。また日本国内の普及史調査を進めることで、日本国内で刊行された翻訳は、1904年11月に『平民新聞』第53号に掲載された部分訳から数えて、1998年に刊行された服部文男による新日本出版社・科学的社会主義の古典選書版まで、総計82点の異なる版を数えること、日本の敗戦までにさまざまな弾圧に抗して24点の異なる版が刊行され、敗戦後は58点の異なる版が刊行されていることが確認された。同じ文献でこれほど多数の翻訳がなされた文献は類例がなく、『共産党宣言』の翻訳史のなかに日本語の変遷を求める研究も生まれていることが明らかになった。

頭記の東京『共産党宣言』普及＝影響史国際会議では、この研究プロジェクトが蒐集した『共産党宣言』の各国語版の画像データを書誌情報と共に公開し、『共産党宣言』の普及＝影響史をビジュアルに提示するとともに、ヨーロッパおよび中国から研究者を招聘し、現在ヨーロッパにおける『共産党宣言』の受容と影響に関する最新知見の紹介や、中国での『共産党宣言』普及に関する日中間の交流を検討する。ドイツ語のKommunismus, Kapitalismus, kommunistische Parteiには日本では「共産主義」「資本主義」「共産党」と訳出表記され、日常語としても定着している。これらのドイツ語術語には中国でも同じ訳語があてられている（漢字表記は両者同一である）。魏海生中央編訳局副局長・図書館長によれば、これは日本語からの転用であるという。この間の経緯はどうであるのか。この国際会議では、こうした諸点を討議することで、『共産党宣言』の普及＝影響史研究を拡充深化しようとする。

日時・会場：(前掲により省略)

I 予定招聘研究者（前掲により省略）

II 共催・後援団体（前掲により省略）

III 研究経費：本研究は、日本学術振興会から科学研究補助金基盤研究B（課題番号:17320019）

の、また経和会記念財団から研究助成を得ている。

文責： 大村泉

○連絡先：事務局書記(橋本直樹) 〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学法文学部内
Tel.: 099-285-7598, E-mail: hx@leh.kagoshima-u.ac.jp
以上